

## 『日本中央アジア学会報』投稿規定

1. 投稿者は、原則として日本中央アジア学会の会員に限ります。
2. 原稿は、過去に他の学術誌・書籍等に掲載されたことのないもの、投稿時点で他の学術誌・書籍等に投稿中・寄稿中でないものに限ります。
3. 原稿の使用言語は原則として日本語とします。
4. 投稿に際しては、完成原稿を MS-Word 形式で作成し、電子メール添付にて送付してください。手書き原稿は受け取りません。
5. 原稿の送付先は下記の通りです。  
E-mail: jacas\_editor@yahoo.co.jp  
日本中央アジア学会編集委員会
6. 原稿の種別は、「論説」、「研究ノート」、「書評」、「中央アジア研究動向」、「中央アジア現地事情」、「年次大会発表要旨」からなります。投稿者は、掲載を希望する種別を明記のうえで投稿してください。ただし、掲載される際の種別に関する最終的な判断は、本学会編集委員会が行います。
7. 原稿の分量は、種別ごとに、1枚400字換算にてそれぞれ、「論説」と「研究ノート」：60枚以内、「書評」：20枚以内、「中央アジア研究動向」と「中央アジア現地事情」：15枚以内、「年次大会発表要旨」：5枚以内、とします。なお、上記の枚数には、本文のほか、表題、注、参考文献、図表等も含まれます。
8. 原稿の書式については、執筆要領を参照してください。
9. 原稿の締め切りは、「論説」、「研究ノート」、「書評」については1月10日とし、「年次大会発表要旨」については4月20日とします。他の原稿については2月28日とします。
10. 投稿された原稿の採否は、編集委員会において決定します。「論説」、「研究ノート」、「書評」の原稿については、審査を行なった上で、編集委員会が最終的な採否の決定を行います。掲載が決定された場合でも、編集委員会より手直しを求めることがあります。
11. 投稿された原稿は返却しません。
12. 校正は、初校についてのみ著者校正をお願いします。その際、大幅な修正や加筆はご遠慮ください。再校以降の校正は、編集委員会の責任で行ないます。
13. 本誌に発表したものを転載する場合は、予め編集委員会に通知した上で、『日本中央アジア学会報』に掲載されたものである旨を記載してください。また、転載された出版物の

発行後、速やかに本学会事務局宛てに1部寄贈をお願いします。なお、刊行後の1年間は、ウェブページを含め、転載をご遠慮願います。

14. 編集委員会は、本誌に掲載されたすべての原稿について、電子化された媒体により複製・公開し、公衆に送信することができるものとします。

(2017年6月21日改訂)

## 『日本中央アジア学会報』執筆要領

### 1. 原稿の形式・体裁

- (1) 表紙に、原稿の種別（「論説」、「研究ノート」など）、表題、英文タイトル、要旨（800字以内）、執筆者名、所属・職位等、および連絡先（郵便番号、住所、電話番号、メール・アドレス）を記す。
- (2) A4判とし、余白は天地30ミリ、左右25ミリとする。
- (3) 原稿は横書きとし、1行の文字数は41字、1ページの行数は32行に設定する。
- (4) フォントについては、和文はMS明朝、英文はTimes New Romanを用いる。アラビア文字等のローマ字転写を示す際は、Times New Romanで表示できる文字については必ずTimes New Romanを用い、表示できないものについてのみ特殊フォントを使う。特殊フォントを使用する場合は、原稿のファイルをメール添付で送付する際に、あわせて原稿のPDFファイル（特殊フォント部分をマーカーで示すこと）も添付する。フォントの文字サイズは、10.5ポイントとする。アラビア数字（算用数字）はすべて半角とする。
- (5) 数字は原則としてアラビア数字（算用数字）を用いる。ただし、本文中ではコンマを用いない。万以上の数字については、万・億・兆などの漢数字を用いることもできる。概数の場合は、十数年、数十人などとする。
- (6) 読点は「、」、句点は「。」を用いる。
- (7) 引用文を提示する際は、引用部分の行の始まりをすべて2字下げるとともに、引用部分の上下を半行空ける。
- (8) 日本語以外の諸言語の文字については、原則として、漢字、ローマ字、キリル文字以外の文字を使用しない。漢字は原則として日本の常用漢字を使用する。ただし、固有名詞の表示や漢文文献の引用など、必要な場合はこの限りでない。アラビア文字等についてはローマ字による転写を用いる。ローマ字転写の方式は、基本的に国内外で採用されている標準的な方式にしたがい、原稿内で方式を統一する。
- (9) 注は脚注とし、1からはじまる通し番号とする。原稿ファイルにおいて、MS-Wordの脚注機能を用いて作成する。
- (10) 出典を示す参考文献とページ番号のみの注は設けない。下記3.で示すような形式にしたがって本文内に入れる。
- (11) 原稿末に参考文献リストを置き、参考文献を示す。具体的な様式等については下記の2.を参照。
- (12) 図版は、執筆者が完全版下となるデータを提供する。図版には通し番号を付し、本文中に挿入希望箇所を表示する。また、別紙に各図版の説明（キャプション）を記す。図

版のデータについては、必ずファイル名に図版の通し番号を入れ、原稿のファイルを送付する際に、画像データも合わせてメール添付で送付する。後者のファイルはBMP形式が望ましい。

## 2. 参考文献リストの様式

- (1) 参考文献リストにおける文献の配列は、著者の姓のアルファベット順とする。単著・編著の区別は、配列順に関係しない。同一著者の複数の文献を掲げる場合は、出版年の古い順に並べる。同一著者の文献が同一年に複数ある場合は、タイトルのアルファベット順に、刊行年に a、b、c などを付加して区別する。なお、文献の言語別に分けて表示する方法を採ってもよい。
- (2) 同じ著(編)者の文献が複数ある場合、2番目以下の文献の著(編)者名部分を——(3倍ダッシ)で表記する。
- (3) 史料等について任意の略号を使用する場合は、参考文献リストにそれを示し、原稿内で統一的に用いる。
- (4) 参考文献リストにおける書誌データの具体的な記載方法については、基本的に下記にしたがう。

### ①単行本

和文：著(編)者名、出版年、書名、出版地、出版社、の順に記す。

欧文：著(編)者名(姓,名の順)、出版年、書名(イタリック体)、出版地、出版社の順に記す。

(例)

佐口透 1986『新疆民族史研究』東京：吉川弘文館。

Jarring, Gunnar. 1991. *Prints from Kashgar: The Printing Office of the Swedish Mission in Eastern Turkestan, History and Production with an Attempt at a Bibliography*, Stockholm: Svenska Forskningsinstitutet i İstanbul.

### ②学術誌掲載論文等

和文：著者名、発行年、論文名、雑誌名、巻号、掲載ページ、の順に記す。

欧文：著者名(姓,名の順)、論文名、雑誌名(イタリック体)、巻号、掲載ページ、の順に記す。

(例)

佐口透 1950「新疆ウイグル社会の農業問題——1760—1820年——」『史学雑誌』59(12)、22-50頁。

Fletcher, Joseph F. 1982. “The Biography of Khwush Kipäk Beg (d.1781) in the Waifan Meng-ku Hui-pu wang kung piao chuan,” *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 36, pp. 167-172.

### ③論文集等掲載論文

和文：著者名、出版年、論文名、編者、書名、出版地、出版社、掲載ページ、の順に記す。

欧文：著者名(姓, 名の順)、論文名、編者名、著書名(イタリック体)、出版地、出版社、掲載ページ、の順で記す。

(例)

羽田明 1964「Ghazāt-i-Müslimin 訳稿——Ya'qūb-bāg 反乱の一史料——」内陸アジア史学会編『内陸アジア史論集』東京：株式会社大安、324–339頁。

Togan, Isenbike. 1992. “Islam in a Changing Society: The Khojas of Eastern Turkestan,” in *Muslims in Central Asia: Expressions of Identity and Change*, edited by Jo-Ann Gross, Durham and London: Duke University Press, pp. 134–148.

### ④史料等に略号を使用する場合略号、コロン(:)を挟んで書誌データを記す。

(例)

新疆図志：『新疆圖志』百十六卷、袁大化修、(清)王樹枏等撰、東方學會據志局本重校正増補、天津博愛印刷局印行、民国12年。

TN: (Mullā Sharaf al-Dīn A'lam ibn Nūr al-Dīn), *Tārīkh-nām (Tārīkh-i Rāqim)*, ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所所蔵・写本番号:r. 10190.

## 3. 本文・注における文献の表記

- (1) 本文もしくは注において参考文献に言及する際には、著(編)者姓、出版年、ページを表示し、括弧[ ]内に入れる。ページ番号は、出版年の後に半角コロン(:)を挟んで示す。
- (2) 同一文献に関して複数回の言及がある場合、前掲書、前掲論文、同上書、同上論文、op. cit.、ibid.、等の語は使用しない。
- (3) 具体的な表記の方法については下記の形式にしたがう。
  - (a) 文の冒頭で言及する場合  
佐口 [1986: 173–174] は……  
Jarring [1991: 85] によれば、……  
ジャリロフ・河原・澤田・新免・堀 [2008: 9] は……  
羽田 [1982: 80–81]、佐口 [1963: 109–110] によれば……
  - (b) 文中または文末で言及する場合  
……という指摘もあり [佐口 1986: 173–174]、本稿では……  
……と指摘されている [羽田 1986: 86–87]。  
……と指摘されている [Jarring 1991: 85]。

……という記述がある [TN: 122b-123a]。

……とされている [ジャリロフ・河原・澤田・新免・堀 2008: 9]。

……と論じられている [羽田 1982: 80-81; 佐口 1963: 109-110]。

……といわれる [羽田 1982: 80-81; 1986: 109-110]。

- (4) インターネット取得のデータを用いる際には、脚注に、記事等の題目、サイト名、URL アドレス、閲覧年月日を記す。

(例)

“Strategy of Innovative Industrial Development of Kazakhstan for 2003-2015,” URL: <http://en.government.kz/resources/docs/doc3>, 閲覧日: 2009年6月18日。

(2017年6月21日改訂)